KIMBARRY：大切なコレクションを暮らしの中へ

ワインセラーの設計は、ときに椅子を後ろへ引くところから始まります。

金巴莉が公開している深圳・銀湖のプライベートワインセラーの空間イメージ図では、木の色を生かしたワインラックが壁に沿って続き、中央には石天板の長いテーブルが置かれています。図面では、それぞれがきれいに収まって見えます。ところが椅子を引くと、別の問いが生まれます。誰かが座った後も、その後ろを通れるでしょうか。ラックからボトルを取るとき、席を立ってもらう必要はないでしょうか。座った目線の先にあるのはワインの壁でしょうか。それとも、テーブルの上で明るすぎる照明でしょうか。

こうした問いには、遠景の完成予想図一枚では答えられません。平面の寸法に戻り、椅子の背、キャビネットの扉、通路を含めて、実際に人がどこに立ち、何をするのかを考える必要があります。美しいラックを見分けるのは難しくありません。難しいのは、それを一つの部屋と、そこで暮らす人たちの生活に調和させることです。

これは金巴莉（KIMBARRY）を理解する最も身近な手がかりでもあります。ワインラックの製作とワインの陳列から始まり、ワインセラー、個人のコレクション空間、商業展示へと仕事を広げてきました。ラックは物の置き場所をつくります。私蔵空間をつくるには、誰が使い、どう取り出し、どう見せ、引き渡し後にどう維持するかまで考えなければなりません。金巴莉は、それらを一緒に整理する仕事をしています。



深圳・銀湖のプライベートワインセラー · 過去のカタログを基に整理した空間イメージ図

一本のラックから、部屋を読み取る力を育てる

ワインを陳列するには、まずボトルを理解する必要があります。列に並べやすいもの、幅を多めに取るもの、ラベルを人に向けて見せたいものはどれでしょうか。店舗の入口から何が見えるかと、ラックの前で何を手に取れるかは別の問題です。ラックの使いやすさは木工の寸法だけでなく、誰に向けて、どこに置くかにも左右されます。

金巴莉は初期に「金巴莉工坊」の名で複数の工事事例を残しています。本文ページに2010年と記された事例集には、各地のワイン空間がまとめられています。雲浮のワイン店の計画では、地元の石材とパイン材のラックが見られ、ガラスの展示台が個別に見せるボトルと列で保管する在庫を区別しています。徐州の別の店舗では、木製ラックの段差と比較的対称的な配置が、入店した人にも分かりやすい陳列の秩序をつくっています。同じ事例集には厦門の地下ワインセラーも収録されています。場所が違えば、方法も異なります。

これらの古い事例をつなげて見ると、工坊が向き合っていたのは木材とボトルだけではなかったことが分かります。店舗では来客に最初に見る場所を伝える一方、運営者は毎日補充をします。地下のセラーでは、部屋の条件、出入口、保管方法を先に把握する必要があります。石材は展示台の質感を決めますが、通路のそばに置けば、その位置と大きさが人の歩き方にも関わります。仕事を進めるほど、家具の外側にも考えるべきことが見えてきます。

2011年、工坊は「良いワインセラーは、どうつくられるのか? 」という設計記事で、芸術、文化、技術を併せて論じています。芸術は素材、照明、比率に表れ、文化は持ち主がコレクションをどう理解し、見せ、分かち合うかに関わります。技術が答えるのは、完成した部屋を当初の意図どおりに使えるかという、より素朴な問いです。2012年には、ワイン業界のフォーラムに金巴莉のウォークイン型ワインキャビネットを紹介する投稿がありました。近い時期のこうした記録から、初期のラック工坊が単体の木工から部屋全体へと仕事を広げた様子がうかがえます。

古い記事には、まったく異なる三つの方法も登場します。天井まで連なるキャビネット、壁に埋め込んだ木の格子と露出したレンガの組合せ、ラックの間に余白を残す構成です。同じページに三つの様式が並ぶことで、工坊が特定の木の色よりも、その場所への適応を重視していたことが見えてきます。保管量、人の動き、部屋の元の形は、様式の名前より先に決めるべきことです。古い計画を今も見返す価値は、そこにあります。

2015年：見えない工事を設計の中へ

ブランドの歴史資料によると、2015年は金巴莉が保管技術と空間サービスをさらに転換させた節目でした。それ以前にも部屋全体のワインセラーを扱っていましたが、その後は方針が一層明確になります。ラック、扉、環境設備、現場工事を、互いに関係のない図面に分けたままにしてはいけないということです。

家の空き部屋をワインセラーに変える場面を想像してください。まず壁を測り、ラックを何列置けるか考えるかもしれません。しかし設計図に落とすには、さらに確認が必要です。入口の扉はキャビネットに当たらないか。設備を置けても、故障時に取り出せるか。配管や配線はどの壁を通り、内装のどの段階までに準備すべきか。扉の位置が少しずれるだけで、家具と壁の図面を描き直すこともあります。問題は単品そのものより、二つのものが接する部分に生じがちです。

そのため現在の金巴莉の公式サイトでは、ワインセラーのサービスとしてラック、外皮構造、扉、温湿度管理、照明、施工の接続を一体で説明しています。ワインの量、部屋の構造、現実の設備条件が違えば判断も変わります。よく使うワインを数列、分かりやすく整理するだけでよい家庭もあれば、より多くの保管量、時折訪れる客、今後の追加分のために余地を残す必要がある私設セラーもあります。写真映えのために、すべての壁を埋める必要はありません。

もう一つの違いは、保守も図面に組み込むことです。環境設備は設置後に放置できるものではありません。家具、壁、設備が互いのアクセスをふさぐと、部品一つの交換が関係のない仕上げにまで及ぶことがあります。設計時に点検空間を多めに確保すれば、ボトルが数本少なくなるように見えても、将来の使用に一つの経路が残ります。長期保管では、見た目の収納密度よりも実際的な選択です。

部屋は、人が長く使うためにつくられます。木、石、ガラスは入室時の第一印象を決めますが、扉の開き方、手の伸ばし方、故障時の点検位置は、その後の毎回の使用を左右します。金巴莉は両方を併せて考え、引き渡し前に確認する事項にも含めています。

同じ深圳でも、二つのセラーと二通りの使い方

深圳・銀湖のプライベートセラーに戻りましょう。過去のカタログを参照して公式サイトに掲載されたイメージ図では、テーブルは中央の空間を埋めるだけの飾りではありません。木製ラックが壁に沿って広がり、石天板の長いテーブルが視線を中央へ導きます。テーブルとラックの距離が、着席後も通れる部屋であるかを決めます。同じ面積を立ったまま出し入れする細い通路に振り分ければ、ワインは増やせるかもしれませんが、部屋も使い方も別のものになります。

次は深圳のプライベートワイン博物館です。過去のカタログのイメージ図には、アーチ形の入口、ガラス越しのワイン展示、物を個別に置く展示台があります。入った人はどこから見始めるのでしょう。どこで立ち止まり、どこで向きを変えて進むのでしょう。日常管理をする人は、見学の動線を妨げずに扉を開けて物を取り出せるでしょうか。この配置には、まとめて展示する部分と、個別に余地を取る部分があります。

二つの計画が興味深いのは、共通の「プライベートセラーの型」を使っていない点です。銀湖の長いテーブルは滞在を誘い、ワイン博物館の展示台は視線をコレクションに沿って動かします。一方は席に着く人を先に考え、もう一方は見る順序を先に整えています。木の色だけを変え、家具の位置と歩き方を同じにすれば、それは同じ空間の二つの版にすぎません。

金巴莉のオーダーメイドで注目すべきなのは、こうした判断です。日常的に取り出すワインはどれか、ボトルを一目で見分ける必要があるか。人に見せたいが、通るたびに触れてほしくない収蔵品はどれか。この二つを確かめれば、家具の奥行き、棚の高さ、光の方向にも自然と異なる答えが生まれます。

2019年以降：ワインから絵画や品物の収蔵へ

2019年9月17日、湖南設計力量の照明デザインフォーラムが深圳の紅星美凱龍・平湖店で開催されました。活動報告の協力者一覧には「KIMBARRY金巴莉尊藏」の名があります。ブランドの歴史資料も、2019年をワインセラーから美術品の保管へとさらに広がった節目としています。同じ年の出来事として見ると、一つはデザイン業界向けの公開活動、もう一つはブランド自身のサービス拡張です。異なるコレクションの問いに、照明、展示、空間の関係を変えて応えるという共通点があります。

ワインは同じ一群のボトルと列に並べられますが、絵には数歩下がって見る場所が必要です。器物の魅力ある面や肌理は、横から光が差して初めて分かることもあります。対象が変われば、セラーで使い慣れた方法をそのまま当てはめることはできません。ガラスの反射から、絵を掛ける壁の安定性、搬入や交換の作業場所まで、改めて考える必要があります。

公式サイトに掲載された湖南の私設美術館の設計イメージでは、壁に掛けて見る作品と平置きの品物があり、周囲に立ち止まったり歩いたりできる余白があります。見るべきなのは壁と台の関係です。視線は壁の絵を追い、台の前で器物へ下がります。すべてを一直線に同じ光で並べれば、厳選した品同士でも互いに主張を競いかねません。見るリズムを整えることで、一つひとつを丁寧に眺める機会が生まれます。



湖南の私設美術館・設計イメージ

さらに先を考えてみます。次の季節に、持ち主がもっと大きな絵に替えたくなったらどうでしょう。いつもの経路で搬入できるか、一時的に置ける清潔な台はあるか、額と壁の両方に気を配るにはどこに立つか。掛ける作業と取り外す作業は別です。展示期間、作品寸法、移動方法を先に確かめれば、今ある作品だけでなく、持ち主のコレクションの変化にも対応する空間になります。

ここまで来ると、「私蔵」はすべてを見えない場所にしまうこととは限りません。目の前に置く品、奥に保管する一群、来客に見せる品、必要時だけ取り出す品を持ち主が選べます。展示と収納を両立させ、物の場所と、人が眺めたり手入れしたりする余地を確保すること。金巴莉がセラーから私蔵空間へ進む中で受け継いできたのは、この配置の技術です。

同じ工事の技術が、まったく異なる姿をつくる

重慶・協信公館のワインセラー設計イメージでは、まず曲面のレンガ天井が目に入り、次に両側の空間に沿う木製ラックが見えてきます。アーチ自体が奥へ視線を導くため、ラックに過剰な装飾は要りません。考えるべきなのは、壁の形の変化をどう受けるか、通路の両側にどう出し入れの空間を残すか、レンガの肌理と探したいワインの段のどちらを照らすかです。適切に扱えば、部屋本来の形が計画の一部になります。

遵義のホテル向けオーダーメイドワインキャビネットの設計イメージでは、木製ラックやレンガ天井は主役ではありません。飲食空間の隣にあるのは、金属フレームとガラスの家具です。通る人には外からよく見えますが、スタッフは別の視点で使います。頻繁に取り出す品はどの段に置くか、扉を開くと通路が狭くならないか、補充の際に客を避けて回る必要があるか。ここでは、扉の開く方向も展示効果と同じくらい重要です。

家庭の保管空間は持ち主の習慣に合わせますが、ホテルや飲食店ではスタッフの交替、日常清掃、補充、営業中の動線にも対応しなければなりません。別荘でゆっくり近づいて眺めるワインの壁を、人の往来が多い場所へ移しても適切とは限りません。二つの事例を並べる意味はそこにあります。姿は違っても、まず使い方を理解してから見せる部分と隠す部分を決めるという判断基準は共通しています。

茶餅、革のバッグ、腕時計。それぞれに合った置き方

金巴莉の公式サイトでは、ワイン、葉巻、茶、沈香、美術品、革製品と衣類、貴重な食材、機材と精密な収集品に、それぞれ設計の紹介があります。同じブランドに属していても、同じキャビネットに押し込めるわけではありません。違いは具体的です。取り出す前の動作も、戻した後に接する光や空気、周囲の品

物も異なります。

たとえば茶の保管です。頻繁に使う茶もあれば、ロットごとに保管し、数年後も識別したい茶もあります。すべての壁を展示に使うことが適切とは限りません。普段使う茶を近くに、箱やロット単位のものを奥に置くほうが、大きな開放棚より習慣に合う場合があります。沈香は品物の分け方、包装の置き場所、周囲のにおいと光を別途考える必要があります。外見は同じ木製家具でも、中の構成は同じにはできません。

革のバッグや衣類では、問いが変わります。よく使うバッグは朝すぐ取れる位置に、元の包装で保管する品には十分な奥行きと高さを、長いコートには裾が折れない吊り下げ空間を用意します。バッグの高さが棚の配置を決めることもあれば、並んだ衣服が照明用の場所を占めることもあります。同寸法の升目だけでは日々の動作を支えられません。壁一面を埋めるより、調整できる区画を一つ二つ残すほうが役立つ場合があります。

貴重な食材の保管では、区分、包装の交換、取り出すロットの順番を考えます。葉巻の保管はまた別の空間課題です。元箱、個別収納、展示部分をどう配置し、設備と扉をどう組み合わせ、点検時に既存の陳列を乱さずに済むか。どれも「保管」ですが、使い方は一つではありません。

公式サイトの機材コレクション空間の計画には、棚とガラスキャビネットのほかに整理台があります。写真が好きな人にとって、台には役割があります。外出前にカメラ本体とレンズを並べて選び、バッグに詰める。帰宅後はバッグから出し、整理して戻す。その台がなくても機材は収納できますが、多くの作業を別の場所ですることになります。一連の動きを設計に含めるかどうかが、展示空間と使いやすい収蔵空間の違いです。

これらの仕事には共通の出発点があります。何を置き、普段誰が取り出し、今後増えるかを確かめることです。扉のデザインを十種類見せる前に、最も大きな箱の高さや、次の追加分を置く場所を確認する。具体的な答えから生まれる家具は、様式の見本帳から選ぶよりも、その家らしいものになります。

最初の採寸から、引き渡し後の確認表まで

収蔵空間の多くの判断は、内装工事の終盤まで待つ必要がありません。壁や天井をまだ閉じず、床も決まっていなければ、設備、配線、断熱範囲を調整できます。すでに固定されていれば、数センチの移動でも他の工種に関わることがあります。金巴莉は公式サイトで、相談と現場条件の確認から計画、詳細設計、実施調整、引き渡しまで説明し、後から変える費用が大きい事項を先に明確にすることを重視しています。

実際の検討は、写真数枚、平面図、大まかなコレクション一覧から始められます。廊下の突き当たりを収納にするなら、階段、エレベーター、開口部から資材を運べるかを先に確認します。部屋をウォークインセラーにするなら、有効面積、設備位置、隣室との関係を見ます。同じ住戸内で面積が近い二室でも、設備、電源、搬入経路との関係によって、工法、施工計画、予算が変わる場合があります。

計画が定まってから、前に置く物と奥に置く物、見える部分の素材、設備と家具の接点を具体化できます。環境設備の機種を変えた場合、天井内の設置場所は足りるか、電源、排水、放熱、点検口も変えるべきかを、設備業者だけに答えさせることはできません。条件を同じ図面と仕様に落とすことが、次に現場へ入る人にも同じ計画を渡せるかに関わります。

一つのチームに部屋全体を任せると、一つの工場がすべてをつくるという誤解があります。金巴莉の公式サイトに示す方法は異なります。案件に合う設備、メーカー、専門業者を選び、金巴莉が材料、構成、製作要件を確認して現場実施を統括します。顧客が設備の寸法図を持って木工、内装、取付の各担当を回り、答え合わせをする必要はありません。顧客が選ぶのは、確保したい保管量、使いやすさ、予算を多めにかける価値がある部分といった、自分に直接関わる事項です。

予算の話も同様です。節約するなら展示家具を一組減らすか、仕上げを変えるかを比較できますが、必要な点検空間を先に削り、後から埋め合わせるのは適切ではありません。最初から埋め尽くさないことで、今必要な部分に費用を使い、将来の収集品の余地を残せる場合もあります。保管、展示、来客対応が同居する部屋では、実際の使用頻度を基に持ち主が予算の優先順位を決めるべきです。

引き渡しでは、美しい写真は記念になりますが、本当に残すべきなのは設備構成、使い方、保守のアクセス位置、合意した検査事項です。商業案件では、引き継ぐ管理者が施工に参加していたかも考えます。個人案件では、持ち主が施工時のチャットを探さずに点検場所と日常の注意事項を分かるようにします。金巴莉は案件を主導する総合請負者として、全体調整と引き渡しの責任を担います。具体的な範囲と引渡物は、計画と案件の合意で確認します。契約と着工の前に明確にするほうが、完成後に各担当者へ一から尋ねるより重要です。

深圳から、まずはあなたの部屋の話を

金巴莉のスタジオは深圳にあります。公式サイトには都市をまたぐ案件の相談窓口もあります。地元の改修、遠方のオーダーメイド、海外案件のいずれでも、最初に確認する情報は共通です。所在地、現場の進捗、空間条件、保管したい品物、現地施工とその後の保守の接続です。遠隔で話せることは先に話し、現場でしか判断できないことは現地確認に委ねます。「できるか」を早い段階で「この部屋をどうつくるか」に具体化するための対話です。

初めて金巴莉に連絡する時点で、様式を決めておく必要はありません。未解決の問いから始められます。百本のワインを置いた後もテーブルの場所は残るか。新しく集めた器物を見せたいが、ガラスは反射しないか。空いた壁に日用品と大切な収蔵品の場所をそれぞれつくれるか。現場写真一枚と、本当にしたいことがあれば、話は具体的になります。

ラックはボトルを整然と並べられます。人のための収蔵空間なら、毎日見たいもの、すぐ手に取りたいもの、友人にじっくり見てもらいたいものにも場所をつくれます。冒頭に戻れば、理想はシンプルです。椅子を引いても後ろを通れ、誰かが座っていても別の人がワインを取れる。部屋の配置のために、誰かが立って道を譲る必要がないことです。

ラックづくりから私蔵空間づくりへ進む中で、金巴莉がずっと大切にしてきたのは、そのことです。大切な品を収め、それを集める人にも心を配る。

KIMBARRYに問い合わせる

KIMBARRYに問い合わせる　WhatsApp +86 186 8155 8730　kimbarry2857@gmail.com